

【小学校1年～3年】 地震災害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」



学級活動
「地震災害から身を守る」



学校行事「避難訓練」

◆ねらい 地震発生時の危険を理解し、安全な避難行動を身に付けることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 地震発生時の行動について知っていることを発表する。 ★ 地震が起こったとき、どんな行動をとればよいか、知っていることを教えてください。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○過去に起きた地震の写真を提示し、地震発生時の身の守り方について知っていることを発表させる。 ○これから学習することは、安全な避難行動を身に付け、命を守るためのものであることを説明し、学習に対する意欲を高める。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> あんぜんな ひなんこうどうを みにつけよう。 </div>		
展 開 25 分	3 地震発生時の危険について理解する。 ★ 教室で地震のときに「落ちてくるもの」「たおれてくるもの」「動いてくるもの」はどれですか。 ★ 地震が起こったとき、どんな危険なことがありますか。	○教室のイラストを提示し、地震が発生したときに危険だと思う部分に印を付けさせる。その後、地震後の教室のイラストを提示し、地震発生時の危険について確認する。 ◎イラストを参考にして、 <u>実際の教室を確認しながら、窓ガラスや照明、本棚などの危険について具体的にイメージさせる。</u>
ま と め 10 分	4 地震発生時の身の守り方を知り、実際に訓練を行う。 ★ 地震が起こったとき、身を守るために、どんな行動をとればよいでしょうか。 5 登下校中や家にいたときの身の守り方について知る。 ★ 登下校中や家にいたときには、どんな行動をとればよいでしょうか。 6 地震が起きたときの安全な避難行動をまとめる。	○イラストを参考にして、「落ちてくる」「倒れてくる」「移動してくる」ものから、どのように身を守るのか考えさせる。 ○実際にシェイクアウト訓練を行う。状況に応じて、緊急地震速報を活用する。 ◎ <u>3つのポイント「頭を守ること」「揺れている間は動かないこと」「危険なところからはやく離れること」を確認して訓練を行うことにより、身を守る行動を身に付けさせる。</u> ○登下校中や家の中での避難行動も、3つのポイントは同じであることを確認する。 ◆地震発生時の危険を理解し、安全な避難行動を身に付けようとしている。 【関心・意欲・態度】〈観察・ワークシート〉
	7 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	◎「お・は・し・も」の意味を確認し、「ゆれているとき」「ゆれがおさまった後」と状況に応じた安全な避難行動についてまとめる。また、余震についても説明し、安全な行動を促す。 ○保護者等と地震のときの避難の仕方について話し合っておくように促す。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

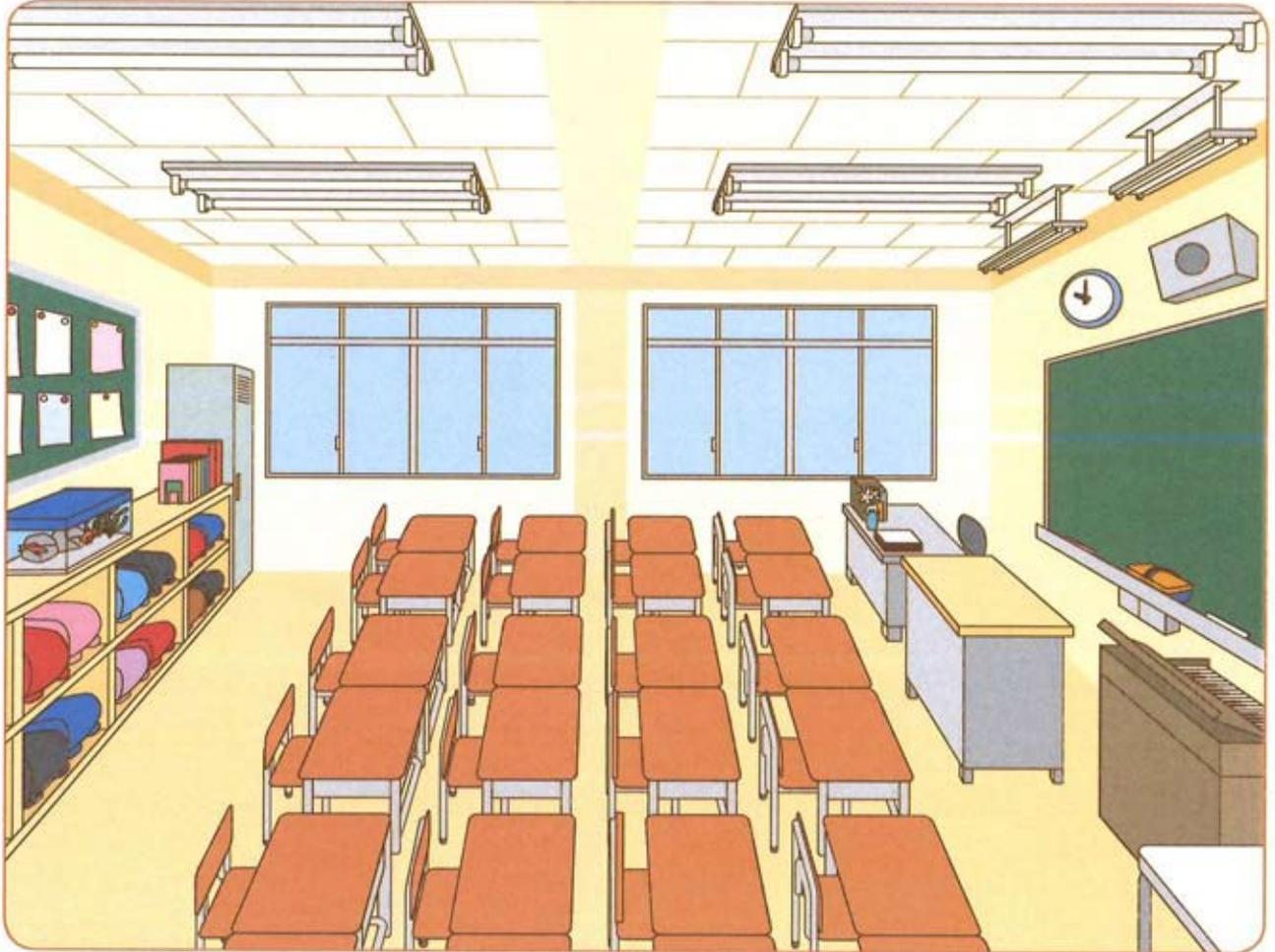
- ・熊本地震に関連する写真や映像「熊本地震デジタルアーカイブ」（熊本県HP）
- ・緊急地震速報の音源CD

ワークシート

()ねん()くみ()ごう なまえ()

めあて

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



イラスト引用「みやぎ防災教育副読本 未来へのきずな 小学校1・2年」

2 じしんから みをまもる こうどう。

- | | | |
|----------------------|---|---|
| ①ゆれがきたら | (|) |
| ②ゆれているあいだは | (|) |
| ③ゆれがおさまったら あぶないところから | (|) |

※ひなんするときのやくそく

お は し も

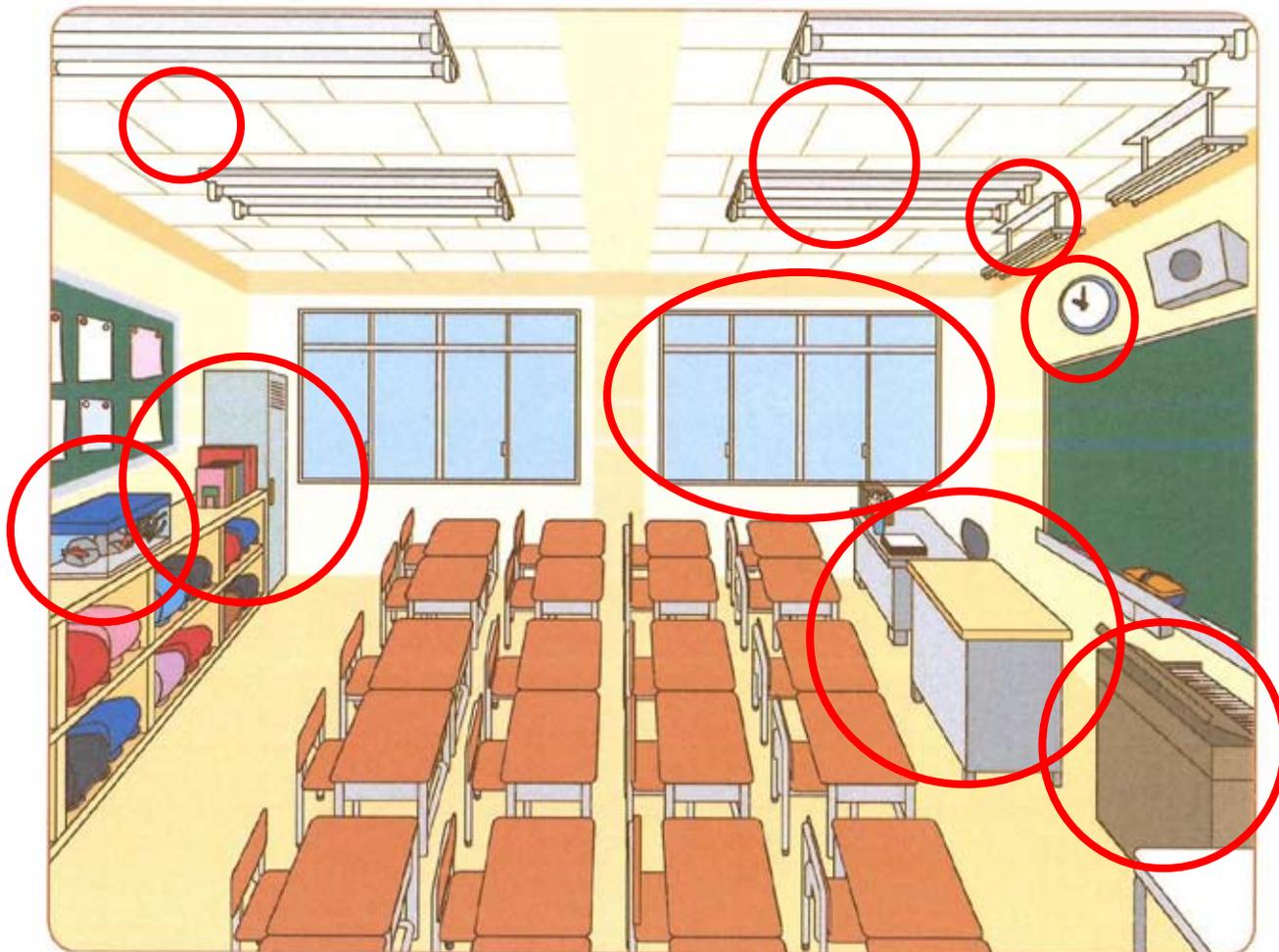
ワークシート（記入例）

()ねん()くみ()ごう なまえ()

めあて

あんぜんな ひなんこうどうを みにつけよう。

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



イラスト引用「みやぎ防災教育副読本 未来へのきずな 小学校1・2年」

2 じしんから みをまもる こうどう。

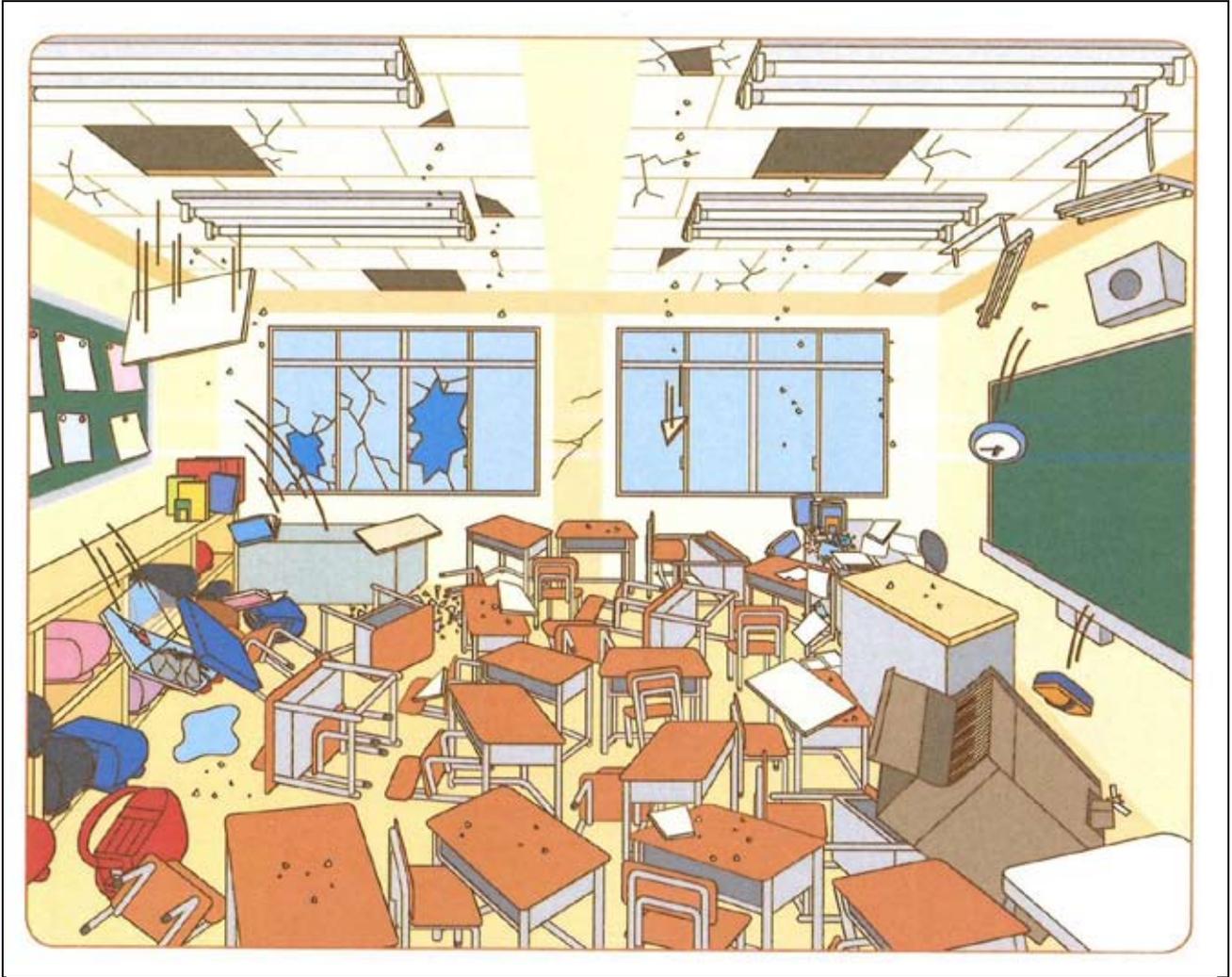
- | | | | | |
|-------------|-----------|---------|---------|---|
| ① ゆれがきたら | (| あたまをまもる |) | |
| ② ゆれているあいだは | (| うごかない |) | |
| ③ ゆれがおさまったら | あぶないところから | (| はやくはなれる |) |

※ひなんするときのやくそく

おさない はしらない しゃべらない もどらない

資料

①きょうしつないのイラストから



イラスト引用「みやぎ防災教育副読本 未来へのきずな 小学校1・2年」

②つうがくろ や いえのなかの しゃしんから

いえのなか

そと

つうがくろ



【提供 熊本地震デジタルアーカイブ（熊本県）】

【小学校1年～3年】 津波災害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」

学級活動「津波災害から身を守る」

学校行事「避難訓練」

◆ねらい 津波の危険について理解し、安全な行動をすることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導入 10分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 津波について考える。 (1) 津波被害の写真を見て、感じたことを話し合う。 ★ 写真を見て、どう思いましたか。 (2) 津波とはどのようなものか、知っていることを出し合う。 ★ 津波について知っていることがありますか。	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価 ○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○津波が想定されない地域に住む児童には、海水浴や釣り、引っ越しなどで、津波災害にあり可能性があることを理解させる。 ○写真等の活用にあたっては、つらいときは見なくてもよいことを伝える。 ○「津波」と聞いて思い浮かぶことを発表させる。 ○熊本県でも過去に津波災害が起きていることを示し、備える意識を持たせる。 【本手引P20、P21参照】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> つなみから いのちをまもるために どうしたらいいか、かんがえよう。 </div>		
展開 30分	3 津波の特徴を知る。 4 避難するときの大事なことについて考える。 ★ 津波から逃げるときに大事なことはどんなことだと思いますか。 ①個人→②グループ→③全体	○特徴として、①速い②高い③繰り返し襲ってくる④川を遡ってくる等を示し、建物を壊したり流したりする強さがあることをおさえる。 ○津波が来そうな時にどのように行動したらよいか考えさせる。 ○津波が想定される地域では具体的な避難場所について考えさせるとともに、日頃から保護者等と確かめ合っておくことを伝える。 ◆津波について理解し、津波が来そうなときにどのように行動すればいいのか考えている。 【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉
まとめ 5分	5 避難するときのポイントをまとめる。 6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○全体でまとめる際は、以下をおさえる。 ・急いで逃げる ・高いところへ逃げ続ける ・大人の指示を聞く ○「津波標識」についても理解させる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

- ・気象庁ホームページ「災害から身を守ろう」
- ・地震調査研究推進本部（地震本部）HP

ワークシート

() ねん () くみ () ごう なまえ ()

めあて

○ つなみの とくちょうを かきましょう。



提供：地震調査研究推進本部

☆ 「つなみ が くる」とわかったら

ワークシート(記入例)

() ねん () くみ () ごう なまえ ()

めあて

つなみからいのちをまもるためにはどうしたらいいか、かんがえよう。



○ つなみのとくちょうをかきましょう。



提供：地震調査研究推進本部

- ・はやい
- ・たかい
- ・くりかえす
- ・かわを さかのぼってくる

☆ 「つなみがくる」とわかったら

- ・いそいでにげる
- ・たかいところへにげる
- ・おとなのしじをきく 等

資料

つなみ ひがいの ようす



提供：地震調査研究推進本部
(提供元：宮城県気仙沼市)



提供：地震調査研究推進本部
(提供元：岩手県宮古市)

つなみが くと わかったら



【提供：気象庁】

つなみ ひょうしき



つなみちゅうい

つなみが くと あぶないばしょ



つなみひなんじょ

つなみが きても あんぜんなばしょ



つなみひなんビル

【気象庁津波防災ハンドブックから引用】

【小学校1年～3年】 風水害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」



学級活動「風水害から身を守る」



学校行事「避難訓練」

◆ねらい 風水害の危険を理解し、安全な避難行動を身に付けることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ◎指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 風水害について知る。 ★ 大雨や強い風が起こると、それによつてどんなことが起きますか？ ★ それはどんな所で起きやすいですか？	○児童の心身の状態について十分配慮する。 ○「風水害」について、その特徴や地域の歴史、起きやすい場所等について理解させる。 【本手引P11～P15、P20、P21参照】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> いのちをまもる あんぜんな ひなんのしかたを みにつけよう。 </div>		
展 開 25 分	3 避難について考える。 ★ こういう危険なことが起こりそうなとき、みんなはどうしますか？ 4 ロールプレイで安全な避難行動について理解を深める。 ★ 今確かめた安全な避難の仕方が実際にできるか、やってみましょう。	◎安全に避難するための優先順位「①大人と一緒に行動すること」「②電話等で大人の指示を受けること」「③自分でできること（浸水時における垂直避難等）を行うこと」を理解させる。 ○ロールプレイを行う。(※シナリオは資料参照) 役割演技をする児童を選び、他の児童はそれを見てポイントごとに考え、学ぶようにする。 ◆よりよい避難の仕方について考えたり、意見を言ったりしている。 【関心・意欲・態度】〈観察・ワークシート〉
ま と め 10 分	5 風水害時の安全な避難行動をまとめる。 ★ 一番大切なことは？ ⇒大人と一緒に避難すること。 「風」 か (かぞくといっしょに) ぜ (ぜんいで) 「雨」 あ (あぶなくないうちに) め (めがせ、ひなんじよ) 6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○児童の実態や発達段階に応じて、安全な避難行動についてまとめる。 ◎安全に避難するための優先順位を再確認する。 ◎事前の準備（避難への物品の備え、頼る大人とその連絡方法、避難する場所など）を保護者等と話し合い、練習しておく必要を理解させる。 ○児童の心身の状態について十分配慮する。

活用資料等

・地域の風水害等の記録誌や市町村のHP 等

ワークシート

()ねん()くみ()ごう なまえ()

ふう すい

風水がいからのちをまもろう

めあて

1 いちばん たいせつな ことは？



2 もしもの ときも あわてずに！

風	か	
	ぜ	
雨	あ	
	め	

ワークシート（記入例）

() ねん () くみ () ごう なまえ ()

ふう すい

風水がいからいのちをまもろう

めあて

いのちをまもる あんぜんな ひなんの しかたを
みにつけよう。

1 いちばん たいせつな ことは？



- ①おとなといっしょにこうどうする。
- ②おとながちかくにいないときは、でんわでひなんのほうほうをきく。

③でんわがつながらないときは、いえの2か
いやかわ・がけからはなれたへやにひなん
する。



2 もしもの ときも あわてずに！

風	か	かぞくといっしょに
	ぜ	ぜんいんで
雨	あ	あぶなくないうちに
	め	めざせ、ひなんじょ

ロールプレシナリオ例① 「大人と行動する」

状況設定：何日も雨の日が続いている日曜日。外に遊びに行けず、保護者等とテレビをみている。

保護者役「〇〇さん、雨がかなりひどくなってきたね。テレビにも早めに避難してくださいって速報が出たよ。もっとひどくなる前に避難所へいくよ。おいで。」

（判断1：履物）

- 玄関を任意の場所に設定しておき、そこに「長靴・運動靴」を置いておく。どちらかを履くか、代表児童に選ばせる。
- 代表児童が選んだ方でいいか、その理由もあわせてクラスで考えさせる。
- **教師のまとめ「長靴より深く水がたまと、とても歩きにくくなります。濡れるのは気にせず、運動靴を履きましょう。」**

（判断2：カッパと傘）

- （長靴を選んでいた場合は運動靴に履き替えさせ）玄関で靴を履いたところからロールプレイを再開する。その脇にカッパと傘を置いておき、どちらか（または両方）を代表児童に選ばせる。
- 代表児童が選んだやり方でいいか、その理由もあわせてクラスで考えさせる。
- **教師のまとめ「2つともある時はカッパを着て、傘は杖代わりに使います。水がたまって溝などが見えなくなっているかもしれません。傘で探りながら歩きます。」**

（判断3：手をつなぐ）

- 玄関で靴を履いたところからロールプレイを再開する。避難所を数メートル離れた所に設定しておき、そこまで2人で移動する。
- 児童が自ら保護者等と手をつないで移動したか。
【つないだ】保護者等（大人）と離れないで行動ができたことを褒め、他の児童にも確認する。
【つながなかった】何かが足りなかったことを伝え、考えさせる。
- **教師のまとめ「安全に避難するとき一番大切なのは、大人といっしょに行動することです。これを絶対に忘れないでください。」**

ロールプレシナリオ例② 「安全に自分だけで行動する」

状況設定：①に同じ。

保護者役「〇〇さん、お仕事でどうしても出かけなければいけないんだ。雨がかなりひどくなってきたから、絶対に外に出てはいけないよ。できるだけ早く帰ってくるからね。」

教師「〇〇さんがテレビを見ていると、テレビが緊急速報画面に変わり、アナウンサーが『早めに避難してください。』と言っています。さあ、どうしますか？」

（判断 1：連絡）

- 代表児童にどうするか考えさせ、実際に演技させるか言葉で説明させる。
- 代表児童が考えた方法でいいか、その理由も、クラスで考えさせる。
- 児童が保護者等（大人）と連絡をとろうとしているか。
【とろうとした】自分（子ども）だけで決めないで、保護者等（大人）にどうすればいいか聞こうとしたことを褒め、他の児童にも確認する。
【とろうとしなかった】自分（子ども）だけで判断し、行動することの危険性を伝える。
- **教師のまとめ「崖崩れや地滑り、高潮、洪水など、どんな危険が起こるか分かりません。自分だけで行動せず、必ず大人を頼りましょう。」**

（判断 2：行動）

- 教師「〇〇さんは、安全に避難しようと保護者等の携帯に電話しました。でも、どうしても連絡が取れません。他の大人にも連絡してみましたが、つながりませんでした。雨の音はどんどんひどくなっています。さあ、どうしますか？」
- 代表児童にどうするか考えさせ、実際に演技させるか言葉で説明させる。
- 代表児童が考えた方法でいいか、その理由も、クラスで考えさせる。
- **教師のまとめ「最初に言われた『絶対に外に出てはいけないよ。』という言葉覚えていますか。これを守りながらできる、安全な行動をとりましょう。2階がある家は崖や川から離れた2階の部屋に移動しましょう。2階が無い家は、崖や川から離れた部屋に移動しましょう。風が強い時は、窓ガラスが割れるかもしれないからカーテンを閉め、窓から離れて身を守りましょう。」**

避難のしかたを身に付ける



土石流が来る前にすばやく避難する



家族との連絡先を決めておく



家族と一緒に避難する



濁った水は深さがわからないから注意する

【提供：土砂災害防止広報センターHP】

【小学校1年～3年】 火山災害から身を守る

◆カリキュラム・マネジメントの視点

道徳「生命尊重」



学級活動「火山災害から身を守る」



学校行事「避難訓練」

◆ねらい 火山噴火時に、自分の安全を守るための行動を身に付けることができる。

◆展 開

	学習内容 ★発問等	○教師の支援 ○指導ポイント ◆評価
導 入 10 分	1 心のケアを受ける。(本手引P2参照) 2 写真を見て、火山について考える。 ★ 火山とは、どんな山でしょう。火山について知っていることを教えてください。	○児童の心身の状態に十分配慮する。 ○何枚かの火山や周辺の様子が見える写真を見せ、噴火の危険性だけでなく、自然の豊かさや恵み、それを生かした人々の営み(農業)などにも触れる。 ○火山噴火は、観光や将来の居住場所等で遭遇する可能性があることをおさえる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> かざんがふんかしたときに、あんぜんにひなができるようになろう。 </div>		
展 開 25 分	3 火山噴火やその危険について理解する。 ★ 火山が噴火したとき、どんな危ないことがあるかを考えましょう。 4 火山噴火時に、安全確保のために大事なことを考える。 ★ 火山が噴火したとき、自分の安全を守るためにどんな行動をとればよいかを考えましょう。	○資料(絵)を活用し、火山噴火時のあぶない場面について、ワークシートに記入させる。 ○ <u>火山噴火時には、小さな噴石や火山灰が降ってきたり、場所によっては窓ガラスが割れたりして、けがをしたり避難しにくかったりする場合があることを理解させる。</u> ○資料をもとに、火山噴火から身を守るためには何が大切なのかを考えさせる。 ○ <u>「噴石から頭を守ること」「火山灰から視界や呼吸を確保すること」について、身近な防災用品(防災頭巾や帽子、タオル、マスクなど)を実際に装着して、身を守る行動を身に付ける。</u> ◆火山噴火時の危険を理解し、自分の安全を守るための行動を身に付けようとしている。 【関心・意欲・態度】〈観察〉
ま と め 10 分	5 火山噴火が起きたときの安全な避難行動をまとめる。 例：頭を守って丈夫な建物の中に、逃げる。 マスクをはめて灰を防ぐ。 大人と一緒に行動する。	○ <u>児童の実態や発達段階、地域の実情に応じて、安全な避難行動についてまとめる。例えば、火山情報を大人と確認すること、窓ガラスから離れること、海や湖の近くの火山噴火では津波が起きることがあることにもふれる。</u> ○「大人や先生が君たちの命を守る」というメッセージを伝え、安心感を持たせる。 ○児童の心身の状態に十分配慮する。
	6 心のケアを受ける。(本手引P2参照)	○児童の心身の状態に十分配慮する。

活用資料等

・「保存版 防災ハンドブック」(熊本県危機管理防災課 H28)

ワークシート

() ねん () くみ () ごう なまえ ()

めあて

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



2 かざんが ふんかしたときに、みをまもる こうどうをしましょう。

◎ () であたまを まもって、じょうぶな たてもののなかに にげる。

◎ () で、目や口にはいる はいをふせぐ。

◎ () といっしょに こうどうする。

○かざんについてのじょうほうを ()。

○まどガラスがわれることもあるので、()。

○うみやみずうみのちかくのかざんがふんかしたら、

()。

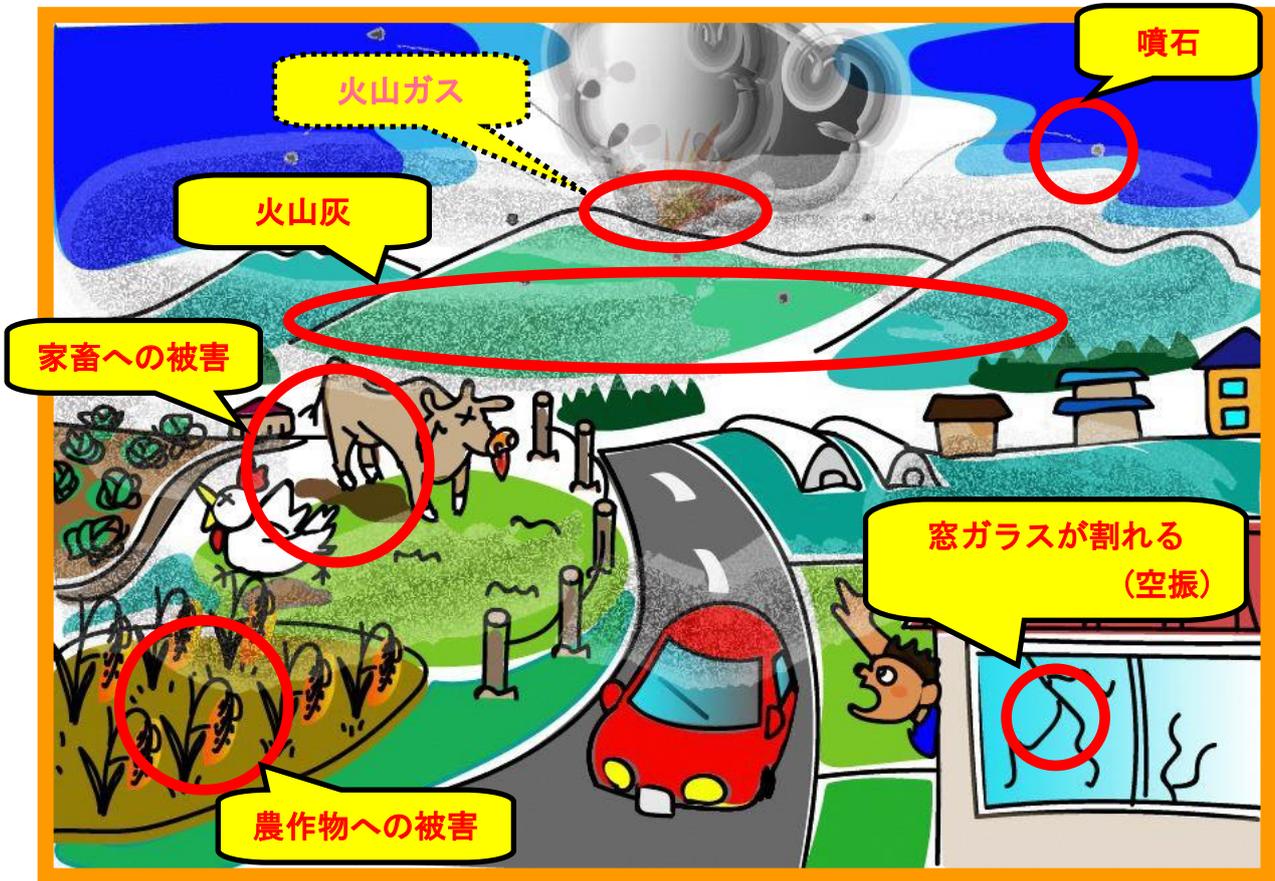
ワークシート（記入例）

() ねん () くみ () ごう なまえ ()

めあて

かざんが ふんかしたときに、あんぜんに ひなんできるようになるろう。

1 あぶないところを、○でかこみましょう。



2 かざんが ふんかしたときに、みをまもる こうどうをしましょう。

◎ (ぼうさいずきんや ぼうし) であたまをまもって じょうぶな たても
ののなかに にげる。

◎ (タオルやハンカチ、マスク) で、目や口にはいる はいをふせぐ。

◎ (おとな) といっしょに こうどうする。

○かざんについてのじょうほうを (おとなのひとと たしかめる) 。

○まどガラスがわれることもあるので、(まどのそばから はなれる) 。

○うみやみずうみのちかくのかざんがふんかしたら、

(つなみから みを まもるために たかいところへ にげる) 。

資料

◎ゆたかな しぜんと かざん

くさせんり



提供：熊本県観光サイト

やそう



すいげん



ちねつはつでん



提供：資源エネルギー庁ウェブサイト

◎かざんがふんかしたら

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



かざんガス

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



ふんか

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



ふんえん

提供：阿蘇山火山防災連絡事務所



ふんせき

出典：熊本県防災情報



かざんばい

出典：防災ハンドブック（熊本県）



かさいりゅう

◎うみのちかくのかざんがふんかしたら

【つなみ きょうくんひ】

むかし、うんぜんの ふげんだけが ふんかしました。やまが こわれて、つなみが くまもとまで おしよせました。



提供：道徳教育用郷土資料「熊本の心」中学校「碑に込められた願い」画像資料より